

## 審良静男教授「2007年度日本学士院賞・恩賜賞」受賞

微生物病研究所の審良静男教授が2007年度日本学士院賞・恩賜賞を受賞されました。日本学士院賞は、学術上特に優れた論文、著書その他研究業績に対して授与されるものであり、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。恩賜賞は、日本学士院による賞の中でも特に権威あるもので、毎年9件以内に授賞される日本学士院賞の中から特に優れた各部1件以内に贈られるものです。

自然免疫は、これまでは非特異的免疫とも呼ばれ、単に病原体の貪食・処理に関わる低次の感染防御反応であると考えられてきました。しかし、Toll様受容体（TLR）の発見、機能解析を通じて自然免疫が極めて特異的に病原体を認識し、病原体の侵入に対処していること、さらに獲得免疫（抗体産生やキラーT細胞）の誘導に必須であることが明らかになりました。審良教授の今回の授賞は、自然免疫による病原体認識とシグナル伝達に関する研究成果が高く評価されたものです。

授賞式は、6月11日(月)、日本学士院会館において、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、執り行われました。



(微生物病研究所)